



A VOICE FOR ANIMALS

No. 4

Winter 1991

Printed on recycled paper to benefit the environment

このニュースレターは環境保護のため、再生紙を使用しています。



A survey carried out by Osaka Prefecture hokensho on why people don't neuter their pets, revealed that the main reason was because they considered it unnatural, even cruel. This way of thinking closely follows to Buddhist philosophy that all life (human, animal, insect, plant, even rocks) should be respected and should not be tampered with.

It is ironic that while humans regard neutering an animal as depriving it of its natural right to give birth, they themselves use birth control or (more commonly in Japan) abortion, as a way to control their numbers. Economics is a key factor. People cannot afford to raise and educate lots of children in developed societies. In countries where women give birth endlessly, they age very rapidly and their health declines as a result.

Dogs and cats when forced to breed often, die within 5-6 years often of cancer of their reproductive organs. Neutered pets live longer and are healthier. People who say neutering is cruel clearly don't realize that it is a simple operation carried out under anaesthetic from which the animal recovers very quickly with no side effects. Unfortunately the majority of veterinary surgeons who should be taking a lead in encouraging neutering, deter pet owners by their exorbitant fees. Throwing away unwanted animals is cheaper than paying the vet.

去勢処置を真剣に考えよう

ペットの飼い主が去勢処置（手術）に冷淡なのは、彼らが「去勢は不自然で残酷である」と思い込んでいるためだ—ということが、大阪府下保健所の調査で明らかになっている。

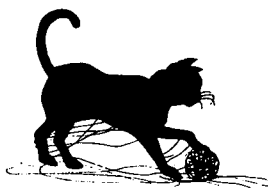
この考え方は「人はすべての生命、いうなら人間、動物、植物、昆虫はもとより、石に到るまでその生命を尊び、かりそめにもこうし生命を殺（あや）めてはいけない」との仏陀の教えに基づくものである。

人は「動物を去勢することは、動物から繁殖する権利を奪うことだ」と考える一方で、人口調節のために自分自身で避妊をしたり、中絶したりしている。何とも皮肉なことだ。とりわけ日本では中絶が今やまったく一般化していることを考え合わせると、この生命尊重の掛け声もいい加減なものだといわざるを得ない。

経済はたしかに重要な要素である。今日の成熟した社会にあつては、経済の裏打ちがなければ人類は多くの子供を養い、十分に教育することは不可能になっている。そして経済発展が充分でない国に限って、しばしば際限のない多産がみられる。こうした国の女性は、結果として健康を害し、早く老ける。

これは動物にもあてはまる。たくさんの仔を生む犬や猫は、生殖器のガンにかかって5～6年で死ぬ。ところが去勢処置を施したペットはずいぶん長生きする。それも健康な状態で。去勢を残酷だという人は、実際には去勢処置が副作用を伴わない安全な麻酔のもとに行われる、きわめて簡単なものだ—ということを知らない。

そのうえ、動物、その飼い主双方にとって不幸なのは、本来、去勢処置を普及、推進すべき立場にある獣医の大半が、法外な手術料を要求することだ。これが去勢処置の普及を阻む大きな原因といっているだろう。確かに獣医に大金を払うよりは、生まれた仔犬、仔猫をどこかに捨ててしまう方が安上がりだ。しかしそれでいいのだろうか？



ARKニュースレターは動物問題に興味ある人たちのためのものです。皆さんのご意見やお便り、身近な話題などは是非お寄せ下さい。自分のペットや助けた動物などにまつわる話題がありましたら、写真を添えて（できれば白黒）送って下さい。お子さんのお便りもお待ちしています。また、ペットに関わるあらゆる相談ごと（病気その他）にもお答えするつもりです。ARKのネットワークを広げ、仲間を増やすために、皆さんのお力を貸して下さい。